

プロジェクトリーダー：愛知工業大学 工学部 内田臣一教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	瀬戸市の里山の水生生物を調べよう
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>瀬戸市馬ヶ城町の馬ヶ城貯水池とその周辺の水域において、のべ 25 地点 (河川の底生動物一般 8 地点、湿地の底生動物 10 地点、河川と池のエビ類 7 地点) で水生生物を調査した。その結果、8 地点でホトケドジョウ、2 地点でヒトスジキソトビケラ幼虫、7 地点でヒメタイコウチの生息を確認した。これら 3 種はいずれも愛知県によって絶滅危惧種に指定されている。当初の予想では、馬ヶ城貯水池とその周辺には外来種のエビ類ではなく、在来種のスジエビなどが生息していることが期待されたが、採集されたエビ類はほとんどすべて外来のカワリヌマエビ属 (スジエビは 1 個体のみ) であった。それでも、3 種の絶滅危惧種の生息を確認したので、馬ヶ城貯水池とその周辺の水域は、水生生物の生息地として貴重な環境であると考えられる。</p> <p>また、馬ヶ城ダム下流において瀬戸市環境課主催で水生生物の観察会を開催し、魚・貝・エビ・水生昆虫の多数の種が採集され、参加者に里山の水生生物を実物に触れながら理解していただくことができた。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>水生生物の調査は、2022 年 5 月 26 日午前 (河川の底生動物一般 1 地点、古瀬戸川本流 貯水池上流、内田と学生 4 人、瀬戸市環境課 2 人)、5 月 30 日午後 (河川の底生動物一般 2 地点、古瀬戸川本流とその支流 貯水池上流、内田と学生 5 人、瀬戸市環境課 1 人、まちづくり協働課 1 人)、8 月 26 日午前・午後 (湿地の底生動物 6 地点、古瀬戸川本流に沿う湿地 貯水池上流と下流、内田と学生 4 人、瀬戸市環境課 1 人)、9 月 9 日午前・午後 (河川の底生動物一般 1 地点、湿地の底生動物 4 地点、貯水池北東方の上流、内田と学生 8 人、瀬戸市環境課 1 人)、12 月 2 日午後 (河川の底生動物一般 4 地点、貯水池北東方の上流、内田と学生 7 人、瀬戸市環境課 1 人)、1 月 24 日午前・午後 (河川のエビ類 6 地点、池のエビ類 1 地点、古瀬戸川本流とその支流 貯水池上流と下流、内田と学生 3 人) に実施した。これらの調査で採集された水生生物はプロパノール入りエタノール (商品名：ソルミック) に浸した後、大学の研究室へ持ち帰って双眼実体顕微鏡を用いて観察し名前を調べ、ねじ口瓶中にエタノールに漬けて保存した。</p> <p>水生生物の観察会は、8 月 20 日午前に瀬戸市環境課 (2 人) 主催により、せと環境塾「ガサガサうまがしろ」と題して開催された。内田と学生 1 人が講師を務め、参加者 17 名 (大人 8 名、子ども 9 名) には各人でたも網を使っただき、全員が自分で水生生物を採集した。</p>	
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	
<p>馬ヶ城貯水池とその周辺には絶滅危惧種 3 種を含む多様な水生生物が生息していることが明らかになったが、さらに広く瀬戸市東部の丘陵に生息する水生生物を調べる必要がある。それによって、今年度の成果が周辺地域との比較により、どのように評価されるか明らかになることが期待される。</p> <p>また、今年度はこのプロジェクトの関係者だけで観察会を実施したが、それだけでは瀬戸市の丘陵の河川・池沼の水生生物を広く市民に知ってもらうことが十分にできるとは言い難い。瀬戸市環境課との協議では、今までこの地域で観察会などを実施してきた他の団体において指導者の高齢化などによって講師などを務める人材が不足しているとのことである。そのような人材を育成する活動にも取り組んでいきたいと考える。</p>	

プロジェクトの実績の写真



2022年5月26日 馬ヶ城貯水池 岩屋堰堤下流での水生動物調査



2022年9月9日 馬ヶ城貯水池 北東方の調査地



2022年12月2日 馬ヶ城貯水池 北東方で採集された水生生物



2023年1月24日 馬ヶ城貯水池 岩屋堰堤下流の調査地



2023年1月24日 馬ヶ城ダム下流の調査地